

BREAKING GLASS

ブレイキング・グラス

権力と陰謀うず巻く
音楽産業界の裏を突く
幻のラブストーリー

ヘイゼル・オコーナー

さらば青春の光

フィル・ダニエルス

ジョン・フィンチ

音楽：トニー・ヴィスコンティ

監督：ブライアン・ギブソン

'80イギリス・アライドスターズ作品

'80カンヌ映画祭特別招待作品

サントラ版：アルファレコード(A.M.P.28015) 監：テレキャスジャパン [映倫]



●入場料＝1,400円(学生1,200円/中学以下1,000円)特別鑑賞券＝1,100円(パルコ渋谷・池袋店IF/都内プレイガイド/大学生協にて発売中)

8/1 [土]

より
ロードショー公開

上映時間＝11:40A.M./1:30P.M./3:20P.M./5:10P.M./7:00P.M.

●お問合せ＝西武劇場 ☎464～5100～1

PARCO 西武劇場

A STAR IS BORN!!

ロンドンで一番燃えてる歌手 ヘイゼル・オコーナー



16才で家をとび出し、パリ、ドイツ、モロッコ、東京と重ねた放浪遍歴は数知れない。したたかに生き抜いてきた女…。数百人のオーディションの中で、プロデューサーがほれ込み、13曲全部をまかせたのも頷ける。

男のやさしさを演じきった フィル・ダニエルス

前作『さらば青春の光』で、日本にも彼のファンは多いが、本国イギリスではTVシリーズなどにも出て、人気、実力とも高く評価されている。前作のドロップ・アウトしたモッズの役とはぐっと趣きを変え、今回は男の内に秘めた芯の強さをうまく出している。

イギリスの若者の心の叫び ニューウェイブ

今やニューウェイブは音楽だけの動きではない。それはイギリスの若者の心の叫び！ 第三のロックンロール！とまで言われている。そのニューウェイブ旋風を巻き起こしたのがこの映画。音楽担当は、デヴィッド・ボウイーやTレックスを育てたトニー・ヴィスコンティ。

これが^{いま}今日のロンドンの現実だ

失業と差別の谷間から噴出する怨念をリアルに表現。怒りを忘れるな。立ち上がれ！叫べ！そして闘え！

ストーリー

ロンドンの裏町。男と女が出合った。女は有名になりたいと思ひ、男は有名にできると思った。女の名はケイト。エキセントリックな顔と、八方破れな行動を兼ねそなえた女。男の名はダニー。その穏やかな風貌の裏に強いポリシーを秘めた男。

二人のスター創造への道が始まった。音楽事務所回り、かけひき、地方巡行。お決まりの道のりのはて、ケイトはどうとう名声をつかむ。ダニーとも愛をたしかめ合い、運が巡って来たかに思えた。

しかし亀裂が生じた。レコードを出し、金儲けをしようというメンバーと、操り人形になる事を嫌うケイトとの対立である。板ばさみになったダニーは知り合いの宣伝マンをミュージックマシン劇場でのコンサートに引っぱり出すが、運悪く、折からのストライキのせいで演奏中ライトが消え、真暗になってしまう。何百というライターの灯の点滅する中での演奏。その夜、コンサートは異常な程盛り上がった。勿論レコード出版も決った。

今やスターになったケイトはスターという虚像と自分自身との落差に精神的にまいってゆく。そんな時、追いうちをかけるような事件が起った。『反コンピュータ管理集会』で、一人の若者の死に直面したのである。

ケイトを休ませようというダニーに、プロダクション側は反対し、トップクラスのプロデューサー・ボブをつけた。売れる時に売ろうと。

とうとうダニーはケイトにダニーをとるかボブをとるか迫る。それはそのまま愛をとるか名声をとるかという選択であった。ケイトは迷いボブをとる。しかし自分を失い、人形になったケイトにとって名声とはいったい何だったのか……。

自己の思想・信条をそのまま映像にぶつけた。ドラマと呼ぶには、あまりにも生々しい。むしろドキュメンタリーと呼ぶ方がふさわしい。

〔ジャム〕

ここにはイギリスの現在がある。カンヌ映画祭で評判をとったのも当然。

〔杉浦孝昭(おすぎ)〕

この映画には悲しいけど“愛”の姿が顕著に出ている。

〔立川直樹〕

悲しく、時には冷酷とも思えるロック・ミュージックの世界をストレートに描き出した最初の本格的劇場映画といえるかも知れない。

「ジョーイ」の
監督：ブライアン・ギブソン
キャスト：ヘイゼル・オコーナー
：フィル・ダニエルス
：ジョン・フィンチ
音楽：トニー・ヴィスコンティ

